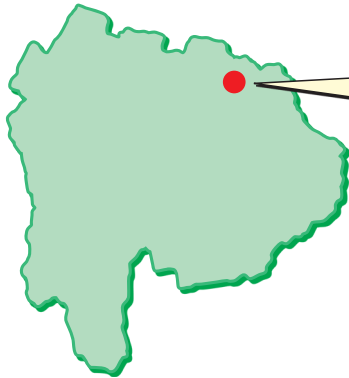




## ～雪害をふり返り、住民が 災害時の対策を考える～



### 一ノ瀬高橋2区（甲州市塩山）

人口：24世帯42人

平成26年2月の豪雪時には、2週間以上孤立。

市役所のある塩山の中心部から車で1時間程度かかるため、災害が発生してしばらくの間、住民同士による安否確認や対処が必要となる。

○研修内容：「災害を想定した住民同士での話し合い・ヒアリング」  
「住民・市職員・県職員お互いの役割について」

### ▶ 研 修

ワーキングでは、土砂災害警戒マップ等により自宅の危険度の確認や、アンサーバック機能付きの防災行政無線の使用法の講習、自治体の防災対策の説明、実災害が発生した際にどう行動すべきかの検討などを実施。

### ▶ 成 果

ヒアリングの結果、平成26年2月14日からの大雪の1週間前、7日に1m近い積雪があった際は部落内に重機があったため対処できたが、14日の大雪時には重機は無く、身動きがとれなくなってしまったことが判明。

対処法として、甲州市役所が市内の建設会社と協議し、甲州市にて大雪注意報が発令された場合には、重機を1台借用し、集落内へ移動させることを、試験的に行うこととなった。

その後、集落内に重機を1台、冬季に配備することが決定した。



▲土砂災害警戒マップ等にて、自宅の危険度を確認する住民と職員



▲アドバイザーによる検討結果のふりかえり

# ▶ 孤立対策 ◀

## 雪害を振り返る

### できたこと

食糧は十分に備蓄していた

停電が無く、通常どおり電気を使用した生活が送れた。

携帯・有線電話が使用できた。

住民によるスキーを使用した安否確認

上水道も使用可

7日の大雪時には除雪機が集落内にあり、住民が操作できた

### できなかったこと

煙草がなくなった

灯油を外に備蓄していたため、補給が困難であった

スコップで除雪できる状況ではなかった

アンサーバック機能のある防災無線まで辿りつけなかった

食糧の投下場所まで辿り着けなかった

14日には、集落に除雪機がなかった

### 雪害から得られた教訓(自助)

携帯のバッテリーを購入

スノーシューを購入

安全な住民宅へ身を寄せる

12月には麓に下りる

発電機を個人で購入したい

## 次の災害を認識する

### 停電したら

電気炊飯器ではご飯が炊けない

暖房器具が使用できない

水道が使用できない

電話が使用できない

### 土砂災害が発生したら

昭和34年の台風では、建物内に土砂が入った

植林により、樹木が多くなっている

斜面は花崗岩が風化した真砂土で構成

集落が川・沢に挟まれている

土石流危険渓流、土砂災害危険区域に指定

土砂災害警戒区域に家屋がある

ワーク  
ショップ

住民と行政が互いに顔の見える関係構築

### 災害に備える(共助、共助と公助の連携)

誰がどここの安全なお宅へ身を寄せるか、あらかじめ決めておく

どうしようもない場合は、ヘリで救出してもらおう

衛星携帯電話、防災行政無線のアンサーバックの使い方を習得

衛星携帯電話を、住民宅で保管する

発電機を購入し、集落の住民全員が最低限生活できる避難場所を確保

大雪注意報発表を目安に、除雪機を配置してもらおう(甲州市、東京都)

※研修の討議で出された様々なご意見をカードに記入し、体系化しました。